



ゆったりが、  
どっさり。  
～ふくしま相双～

# 平成28年度 相双地域医療体験研修(夏期)実施報告

平成28年8月31日(水)～9月2日(金)



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

福島県相双保健福祉事務所



## 目 次

1	実施要領	1
2	日程表	2
3	視察先マップ	3
4	オリエンテーション	4
5	富岡消防署榎葉分署での研修	5
6	榎葉町の復興状況、保健医療福祉の現状と課題についての研修 及び地域住民との交流	6
7	ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」の視察	7
8	医療従事者等との懇談会	8
9	津波被災地の視察（浪江町請戸地区）	9
10	県の原子力関連施設の視察	10
11	被災者との交流（南相馬市社会福祉協議会主催仮設サロン）	11
12	南相馬市立総合病院の視察	12
13	KJ法によるグループワーク（宿所）	13
14	課題研究・発表（宿所）	13
15	相馬市内の視察（相馬市伝承鎮魂記念館・相馬松川浦漁港・百尺観音）	14
16	参加者の体験レポート	15

# 1 実施要領

## 1 研修の目的

東日本大震災により県内で最も大きな被害を受けた相双地域の医療や復興の現状について、医療機関や被災地の視察及び地域住民との交流等を通して、理解を深めてもらう。

## 2 開催日

平成28年8月31日(水)～9月2日(金)〔2泊3日〕

## 3 対象者

地域医療に関心を持つ医学部学生 8名

## 4 研修内容

### (1) 地域医療現場の視察

地域医療（救急医療を含む）の現場の視察を通して、被災地における医療の現状と課題等について学ぶ。

（研修先：富岡消防署榭葉分署、ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」、南相馬市立総合病院）

### (2) 医師や臨床研修医等との懇談

医師や臨床研修医等から、地域医療に対する考え方や体験談など生の声を聞き、意見交換を行う。

（研修先：ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」、南相馬市立総合病院）

### (3) 地域住民との交流

仮設住宅等に入居する被災者との交流を通して、被災地の現状について理解を深める。

（研修先：榭葉町役場、南相馬市社会福祉協議会主催の仮設住宅健康サロン）

### (4) 被災地の復興状況と地域の歴史と文化の視察

被災地の現状と復興への取り組み状況を視察するとともに、地域の歴史と文化を学ぶ。

（研修先：榭葉町役場、浪江町沿岸部津波被災地、福島県南相馬原子力災害対策センター、福島県環境創造センター環境放射線センター、福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター、相馬市伝承鎮魂記念館）

### (5) 課題研究・発表

あらかじめ提示した課題について研究する。また、研修を通して学んだことや考えたことをまとめ発表する。

## 5 宿泊場所

展望の宿「天神」（榭葉町）、かんのや（相馬市）

## 2 日程表

月日	時間	内 容	場 所
8/31 (水)	9:25 ~ 10:25	オリエンテーション(医大)	福島市
	10:25 ~ 13:00	移動(医大→檜葉町)※高速道路使用(二本松IC~郡山JC~いわきJCT~ 広野檜葉IC経由) 車内昼食	檜葉町
	13:00 ~ 14:00	富岡消防署檜葉分署(救急業務、ドクターカー等)の視察研修	
	14:10 ~ 16:00	檜葉町の復興状況、保健・医療・福祉の現状に関する研修	
		地域住民との懇談会	
	16:05 ~ 17:00	ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」の視察研修	
	展望の宿「天神」へ移動		
18:00 ~ 20:00	医療従事者等との懇談会		
9/1 (木)	8:30 ~ 9:20	移動(檜葉町→浪江町)	浪江町
	9:20 ~ 9:40	津波被災地視察(浪江町沿岸部)	南相馬市
	9:40 ~ 10:10	移動(浪江町→南相馬市)	
	10:10 ~ 11:50	視察 福島県南相馬原子力災害対策センター(オフサイトセンター) 福島県環境創造センター環境放射線センター 福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター	
	12:00 ~ 13:00	昼食(南相馬市内)	
	13:15 ~ 14:45	原町区高見町仮設住宅集会所健康サロンでの体験実習、被災者との交流	
	15:00 ~ 16:30	南相馬市立総合病院の視察研修	
	16:30 ~ 17:30	移動(南相馬市→相馬市)	
	相馬市「かんのや」へ移動		
18:00 ~ 19:00	KJ法、課題研究		
9/2 (金)	8:30 ~ 11:00	課題研究・発表	相馬市
	11:05 ~ 11:30	相馬市伝承鎮魂記念館視察	相馬市
	11:35 ~ 12:20	昼食	
	12:20 ~ 13:20	相馬市内視察(百尺観音、道の駅)	
	13:20 ~ 15:20	移動(相馬市→医大)、解散	





## 4 オリエンテーション（福島県立医科大学）



☆**福島県立医科大学**  
**医療人育成・支援センター**  
住所：〒960-1295  
福島市光が丘1番地  
TEL：024-547-1047

地域医療体験研修の開始にあたり、福島県立医科大学において、研修の趣旨、日程、研究課題等についてオリエンテーションを行いました。また、翌日の仮設サロンに備えて、血圧測定の仕方を練習しました。（説明：同大学安井助手）

## 5 富岡消防署榎葉分署での研修



☆富岡消防署榎葉分署

住所：〒979-0513

双葉郡榎葉町大字山田岡字仲丸1-110

TEL：0240-25-2119

富岡消防署榎葉分署では、中嶋富岡消防署から歓迎のごあいさつをいただき、遠藤副署長から消防署の概況について説明を受けました。さらに、救急医として派遣されている池上先生から双葉地方の救急医療の現状について講話をいただきました。



## 6 檜葉町の復興状況、保健医療福祉の現状と課題についての研修及び地域住民との交流



☆檜葉町立あおぞらこども園会議室にて  
住所：〒979-0604  
双葉郡檜葉町大字北田字中満 296-1

檜葉町では、猪狩復興推進課政策広報室長から町の復興状況について、玉根住民福祉課課長補佐からは保健医療福祉の現状と課題について説明を受けました。その後、地域住民との懇談を行いました。



## 7 ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」の視察



概況説明



猪狩看護師長



古畑副主任薬剤技師



ウォーターベッドの体験

☆ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」  
住所：〒979-0604  
双葉郡楢葉町大字北田字中満 289-1  
TEL：0240-23-6500

平成 28 年 2 月開設のふたば復興診療所「ふたばリカーレ」を視察しました。高澤次長からの診療所の概況説明に続き、猪狩看護師長及び古畑副主任薬剤技師から当診療所での体験などについて講話いただきました。その後、所内を視察し、医療設備の整備状況について説明を受けました。

## 8 医療従事者等との懇談会（檜葉町 展望の宿「天神」）



☆展望の宿「天神」

住所：〒979-0604

双葉郡檜葉町大字北田字上/原 27-29

TEL：0240-25-3113



参加者一同で太平洋を展望



松本町長あいさつ



大和田副町長あいさつ

展望の宿「天神」で、檜葉町松本町長、大和田副町長、猪狩復興推進課政策広報室長、松本住民福祉課長、玉根住民福祉課主幹兼課長補佐に参加いただき、檜葉町の医療の現状や復興の取組について意見交換し、懇談しました。



## 9 津波被災地の視察（浪江町請戸地区）



時間の都合で車内からの視察となりましたが、5年経過した今でもその爪痕が残る浪江町請戸地区にて、津波被災地の現状を確認しました。



## 10 県の原子力関連施設の視察



### ☆福島県南相馬原子力災害対策センターの視察

住所：〒975-0036 福島県南相馬市原町区萱浜字巣掛場 45 番 178



### ☆福島県環境創造センター環境放射線センターの視察

住所：〒975-0036 福島県南相馬市原町区萱浜字巣掛場 45 番 169



### ☆福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センターの視察

住所：〒975-0036 福島県南相馬市原町区萱浜字巣掛場 45 番 169

南相馬市原町区萱浜地内に隣接立地の福島県南相馬原子力災害対策センター、福島県環境創造センター環境放射線センター及び福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センターを視察し、原子力災害時の防災や避難地域の農業再生の取組について学びました。

## 1 1 被災者との交流

(南相馬市社会福祉協議会主催仮設サロン)



☆高見町第一応急仮設住宅集会所

住所：〒975-0033

福島県南相馬市原町区高見町  
2丁目24-7

南相馬市原町区にある高見町第一応急仮設住宅集会所で、  
血圧測定や健康相談を通して、被災した地域住民の方々と交  
流しました。



## 1 2 南相馬市立総合病院の視察



金澤幸夫院長の講話

☆南相馬市立総合病院

住所：〒975-0033

南相馬市原町区高見町二丁目54番地の6

TEL：0244-22-3181



臨床研修医との懇談



院内視察

南相馬市立総合病院では、金澤院長から講話をいただき、震災当時の状況や現在の病院の取組等について学ぶことができました。臨床研修医（4名）との懇談会では、地域医療に携わるきっかけや医師を目指す上での心構えなどをお聞きしました。その後、病院内を視察しました。



### 13 KJ法によるグループワーク（宿所）



「地域の医師不足解消の処方箋」をテーマに、「KJ法」によるグループワークを行い、グループごとに考えをまとめ発表しました。

### 14 課題研究・発表（宿所）



☆松川浦旅館「かんのや」  
住所：〒976-0022  
相馬市尾浜字船越 139  
TEL：0244-38-8013



「今回の研修の感想」と「地域医療に必要とされる医師」をテーマに、学生一人一人から、プレゼンテーションが行われました。活発な意見交換が行われ、それぞれの発表の後、県立医科大学大谷教授が講評を行いました。

## 15 相馬市内の視察

(相馬市伝承鎮魂記念館、相馬松川浦漁港、百尺観音)



☆相馬市伝承鎮魂記念館

住所：〒976-0021

相馬市原釜字大津 270

TEL : 0244-26-4848

相馬市伝承鎮魂記念館において、震災被害の大きさがわかる資料や津波映像などを見学しました。



☆相馬松川浦漁港にて  
相馬市尾浜字追川地内



☆百尺観音

住所：〒979-2522

相馬市日下石字高根沢 686

TEL : 0244-35-2902

震災復旧後の相馬原釜漁港及び観光スポットの百尺観音を見学し、地域の歴史や文化について理解を深めました。



## 16 参加者の体験レポート

### 体験レポート①

私は、相双地区で暮らしていたことがあり、「なじみのある土地だから久しぶりに行ってみたい!」という理由でこのコースを選択しましたが、実習は内容が濃く、想像以上に良いものでした。この実習で良かった点、それから反省した点をいくつか振り返りたいと思います。

まず、何より震災以来で一番多くの時間を相双地区で過ごせたことが良かったです。榎葉町から南相馬市まで国道6号線を通って移動している間、私はずっとバスの窓から風景をみていましたが、立ち入り禁止が解除されて住民が戻りつつある地域には、新しい店や家が少し増えていたり、歩道を歩く人の姿が見られたり、少しずつではありますが、復興が始まっているのが感じられました。ですが、伸び放題の雑草や山積みになった黒いビニール袋を見て、復興はそう簡単には進まないという現実もつきつけられた気がします。6号線を通って浜通りを移動する機会は震災以降ほとんどの人にはないと思うので（通れると知っていても通りたいがらない）、良い機会だったと思います。

今回の実習は、病院にとどまらず、様々な施設に行ったり、医療従事者以外の方とお話したりして交流する時間がありました。これもまた、今回の実習で良かったと思える点です。現段階では臨床現場を見させていただいても、知識が足りなすぎて、「難しそうなことをやっているな」と思って終わってしまうと思います。1年生の時の地域実習は、病院の様子や先生方の仕事を見れたのは良かったのですが、正直、「医者になったら大変そうだ」というマイナスのイメージを持ってしまいました。しかし、今回は実習を終えてみて、「やっぱり地元で働きたい」という気持ちが強くなりました。私を含め、臨床医になりたいと思っている学生は、病院で最新の立派な機会や治療を見ることよりも、患者さんや医療を必要としている地域住民の方とお話したほうが、「将来は地域医療に貢献したい」という思いや、これからの勉強へのモチベーションを上げるには効果的なのではないかと思います。住民の方や行政に携わっている方とお話して、その地域への親近感もわきました。病院で1対1で患者さんを診ると、「目の前の1人の患者さん」としか思えず、“地域医療”というものを忘れそうになりますが、今回のように、まずその地域の状況や文化を知って、住民の方と交流して、どんな人たちが住んでいるのか知ることで、“地域医療”が意識しやすくなると思います。医師の数を増やすには、労働条件も重要だと思いますが、その地域の魅力が伝わらなければ難しいのだということも今回の実習で感じました。（相双で暮らしていた私にとっては、相双はのどかで良い場所です!）

実習で悪かった点は特にありません。実習内容については満足しています。実習で私が反省すべき点は3つあって、1つ目は、最近の相双地区の復興状況をあまり知らなかったことです。実習やテスト勉強で忙しかったとはいえ、ちゃんとニュースを見たり、新聞を見たりして、把握できるように気をつけたいです。2つ目は、復興についての情報発信です。南相馬市立総合病院の研修医の先生が積極的に情報発信されていることに驚きました。先生のように投書するのは難しいですが、今の福島の様子を県外から来た人に説明して「安全」だということは伝えられるようになりたいと思います。3つ目は、人の話を自分なりの疑問点を持ちながら聞くことです。「必ず質問しなきゃ」と思いながら話を聞くのとそうでないのは、まるで違います。質問しないと、と思うと、話を集中して聞くことになるし、自分で考えるクセがつくようになりました。

良い地域実習でした。この実習に携わった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。後輩には、地域実習では相双地区を勧めたいと思います。3年生は、これからやっと専門科目を勉強していくのですが、今回の実習で高まったモチベーションをキープしながら勉強に取り組んでいきたいです。

（福島県立医科大学3年）



## 体験レポート②

今回の地域実習では、地域医療体験研修ということで、福島県内のそれぞれの地域の医療を自分の目でみて、体験させていただいた。医学の基礎を終えた段階でのこのような実習は、今まで得た知識を一部ではあるが、確認できたり、これからの医学応用の学習へのモチベーションの上昇にもつながったように感じている。

以下、私が参加させていただいた相双地域医療体験研修について述べさせていただく。私は相双地域の富岡町出身で、中学校卒業までの15年間、相双地域に密接に暮らしてきたため、今回の地域医療体験研修ではいろいろ考えさせられることが多かった。

富岡消防署榎葉分署の視察研修では、今の相双地域が抱える医療・救急の問題についてお話をいただいた。救急の要請を受けてから病院搬送まで時間がかかってしまうこと、二次救急の病院が不足していることなどをお聞きし、相双地域の医療の難しさを学んだ。

榎葉町の視察研修では、私の出身の富岡町が近々避難指示が解除されるとのことで、とても興味深く研修させていただいた。ここでは、一度避難指示が出た地域の復興の難しさや、実際に地域住民と話すことで、住民が抱える不安・問題について学ぶことができた。また「ふたばリカーレ」の視察研修や医療従事者との懇談会では、実際に働き、復興に取り組む方々からお話を聞くことができ、大変貴重な経験となった。

浪江町沿岸部の津波被災地視察では、自分の目でみることもできたのは大きな収穫だったように感じる(今まで、動画や画像などでしか津波の被害を目にしたことがなかったので)。

原子力関連施設の視察では、今後も私たちの生活に密接に関わっていくであろう原子力発電所の今後の事故への対応策についてお聞きしたり、今も各地の放射線量をチェックしていることを教えていただき、少しではあるが、安心感を得ることができた。

被災者との交流では、実際に被災者の震災時のエピソードを聞くことができ、いろいろと考えさせられた。

南相馬市立総合病院の視察研修では、相双地域の最前線の病院であるこの病院の視察ができ、非常に良かったと感じる。また、実際に南相馬市立総合病院で研修医として働く4人の先生方からいろいろなお話をいただいたり、私たちからの様々な質問に答えていただいたりしたことは大変貴重な経験となった。相双地域だけでなく、いわき地域などにおいても、それぞれの地区の出身者が地元へ戻って研修をしたり、医師として働く人は少ないという話を始めてお聞きし、驚きの気持ちでいっぱいであった。

KJ法、課題研究では「相双地域で働くなら条件は？」という課題について論を深めた。学生視点で様々な意見をあげたが、行政視点でみると困難なものがたくさんあること、そして何よりも、仮にお金を積んだとしてもそれだけでは働こうと思う人が少ないことを知り、地域医療における医師確保の難しさを知った。

今回の地域医療体験研修では、以上のように非常に多くのことを学ばせていただいた。この研修で得た知識などをこれからの学習で活かせればと感じている。そして何よりも、今後医師となった際、相双地域に何らかの形で関わっていききたいという気持ちが非常に強くなったのは、この研修の何よりの収穫だと考えている。

(福島県立医科大学3年)

---

---

平成28年度  
**地域医療体験研修（夏期）実施報告**

編集・発行

福島県相双保健福祉事務所 総務企画部総務企画課  
〒975-0031 南相馬市原町区錦町1丁目30番地  
電話 0244-26-1323  
FAX 0244-26-1332  
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21160a/>  
E-mail ([sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp](mailto:sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp))

---

---